

財団だより

第163号

2020.9

# 多摩川



ユリカモメ 他

## ユリカモメ

写真・文 大野 章(川崎市多摩区在住)



夏羽



冬羽

多摩川中流域では、ユリカモメは、9月末頃から翌年春（アユやマルタウグイの遡上の頃）まで見られる。

集団で水面に浮いていたり、岸辺で休む様子は、童謡「カモメの水兵さん」に唄われている通りである。が、一旦、餌を求める場面では「ギィギィ」「ガァガァ」騒がしく鳴き合いながら、20～30羽が入り乱れ奪い合うことになる。散歩の人が撒くパン等を、全身をひねって器用に空中で啜えとめる技には驚嘆させられる。水中の魚を捕まえることもある。

鮮やかな朱の嘴と脚が美しい冬羽。頭部と嘴、脚も黒くなる夏羽。その変化途中の各段階。一種類の野鳥で様々な染まり具合を見ることができる。

ユリカモメが青空をバックにゆるやかに舞うのを見上げるのは、この時期の楽しみのひとつである。

### 目次

- 新理事長就任ご挨拶 ..... 2
- 新型コロナウイルス ..... 4
- 多摩川散歩 ..... 6
- 多摩川に学ぶ ..... 7
- 連載8 多摩川直轄改修への道 ..... 8
- 「令和元年東日本台風(台風第19号)に伴う洪水による環境変化」について ..... 10
- インフォメ/多摩川 ..... 11
- 財団からのお知らせ ..... 16
- 事務局より ..... 18

## 新理事長挨拶

7月1日より当財団の理事長に就任いたしました金指でございます。

東急グループは、創業以来「まちづくり」を中心に、地域に密着したさまざまな事業を通じて、安心で豊かな暮らしの実現に取り組んでおります。そのため、収益事業のみならず、社会貢献活動を重要な事業として位置づけ、長年にわたり財団活動を行ってまいりました。

「東急財団」は2019年4月、「とうきゅう環境財団」「とうきゅう留学生奨学財団」「五島記念文化財団」の3つの財団を統合して誕生しました。財団活動の原点は、1974年の「とうきゅう環境浄化財団」設立時の思いにあります。急激な経済発展を背景に公害問題が深刻化するなか、まちづくりを営む企業の社会的責任として、事業エリアを流れる多摩川とその流域の環境浄化を図りたいと考えて取り組みをスタートしました。3つの財団はそれぞれ、こうした設立時の社会課題を踏まえ、その解決に主体的に取り組む個人の方や団体への支援事業を中心に、地域社会の福祉向上・国際親善・文化芸術の振興に力を尽くしてまいりました。

財団設立から45年以上が経ち、社会環境は大きく変化しました。これまでの取り組みが一定の成果を生む一方、新たな社会課題も生まれています。また、NPOの活動が活発化するなど、社会課題に取り組む主体も多様化し、3財団が支援を行ってきた活動対象の枠を超え、さまざまな取り組みが行われています。私たち東急財団は、設立時の思いは大切に引き継ぎながら、こうした社会の変化をとらえて、取り組みを柔軟に進化させていきたいと考えております。

東急グループでは、グループスローガンに「美しい時代へ」、存在理念には「美しい生活環境を創造し、調和ある社会と一人ひとりの幸せを追求する」ことを掲げています。私たち東急財団も、この理念のもと、安全・安心・心豊かに暮らせる真に豊かな地域社会づくりのお役に立てるよう、皆さまと共に社会課題に取り組む続けてまいります。

今後とも、ご支援のほど、何とぞよろしくお願い申し上げます。



公益財団法人 東急財団  
理事長 金指 潔

## 役員・評議員

理事長	金指 潔	東急不動産ホールディングス株式会社 取締役会長
常務理事	但馬 英俊	東急株式会社 執行役員 社長室長
理事	桑子 敏雄	東京工業大学 名誉教授
	小林 真理	東京大学大学院人文社会系研究科 教授
	佐藤 俊樹	東京大学大学院総合文化研究科 教授
	高橋 陽子	公益社団法人日本フィランソロピー協会 理事長
	板東 久美子	日本司法支援センター 理事長
	涌井 史郎	東京都市大学 特別教授
監事	島本 武彦	東急株式会社 常勤監査役
	長岡 美奈	長岡公認会計士・税理士事務所 代表
評議員	鈴木 賢一	社会福祉法人NHK厚生文化事業団 理事長
	富田 哲郎	東日本旅客鉄道株式会社 取締役会長
	巴 政雄	東急株式会社 代表取締役副社長執行役員
	西川 弘典	東急不動産ホールディングス株式会社 代表取締役社長 社長執行役員
	野本 弘文	東急株式会社 代表取締役会長
	平野 信行	株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ取締役 執行役員会長
	渡邊 光一郎	第一生命保険株式会社 取締役会長

(五十音順) 2020年7月1日現在

### とうきゅう環境財団

東京急行電鉄(現・東急)創立50周年を記念して「財団法人とうきゅう環境浄化財団」として設立。社会的責任ある企業としての責務を果たすべく、事業地域の中心を流れる多摩川とその流域の環境浄化を目的に、研究助成や啓発活動を行う財団としてスタートしました。

1974年8月設立

1980年

1975年4月  
研究助成事業開始。多摩川とその流域の環境浄化・保全のための研究や活動に対する助成を開始。一般研究も対象。



1990年

1994年3月  
財団設立20周年を記念して、環境学習副読本「多摩川へいこう」創刊。流域の小学校などに無償配布を開始。2018年度までに累計30万部配布。



2000年

2009年8月  
財団設立35周年記念事業として、我が国の学術振興に資することを目的に「社会貢献学術賞」制定。

2010年

2010年10月  
公益財団法人に移行。名称を「公益財団法人とうきゅう環境財団」に変更。以降、多摩川流域の生物の生態、歴史文化も含めた調査研究を幅広く支援。

### とうきゅう留学生奨学財団

「財団法人とうきゅう外来留学生奨学財団」として設立。日本と諸外国との協調および国際理解の促進、国際交流・文化交流の増進、友好的な善隣関係の樹立を目的に、外国人留学生への奨学助成をする財団として活動を開始しました。

1975年10月設立

東急不動産で1974年から行っていたアジア・太平洋地域諸国からの大学院留学生への奨学金支給事業を引き継ぐ形で事業開始。



1992年11月  
機関誌の発行開始。世界中の全奨学生へ送付。



2011年11月  
公益財団法人に移行。名称を「公益財団法人とうきゅう留学生奨学財団」に変更。

### 五島記念文化財団

豊かな生活環境の創造に力を尽くした東京急行電鉄(現・東急)元会長 五島昇の事蹟を記念して「財団法人五島記念文化財団」を設立。文化的に豊かな社会の実現と、日本および世界の文化の向上・発展に寄与すべく、芸術・文化の分野での優秀な新人や、創造的で優れた芸術活動を行っている団体への顕彰・助成を行う財団として、活動を開始しました。

1990年3月設立

1990年7月  
「五島記念文化賞」オペラ新人賞・美術新人賞の贈賞開始。



1991年4月  
オペラ公演助成開始(～1998年)。

2000年9月  
財団設立10周年を記念して、ガラコンサート(オペラ部門・グループ展(美術部門))を開催。2005年、2010年にも開催。



※2010年はグループ展のみ

2009年4月  
邦人のオペラ作品の振興を目的に、日本オリジナルオペラ公演を対象にした公演助成を再開。

2012年4月  
公益財団法人に移行。

## 2019年4月スタート 東急財団

### 環境部門

2019年7月 「2019年度研究助成金贈呈式」開催(学術研究20件 一般研究8件 採択) 11月社会貢献環境学術賞 大澤 雅彦氏に授与 環境学習副読本全面改訂 「ようこそ多摩川へ」制作



【2019年度までの実績】  
研究助成 1,280件(学術研究 801件、一般研究 479件) 助成金総額 15 億円

### 国際交流部門

2019年4月  
奨学金授与式・例会開催 (30名の留学生へ奨学金支給)



【2019年度までの実績】  
奨学生 28カ国 912人 助成金総額 26 億 9千万円

### 文化・芸術部門

2019年4月  
第30回五島記念文化賞贈呈式を開催



【2019年度までの実績】  
新人賞 137人 (オペラ部門 75人、美術部門 62人)  
研修成果発表 108件 (オペラ 53件、美術 55件)  
オペラ公演助成 137件 助成金総額 13 億円

## 特別寄稿



# 新型コロナウイルス

NPO 千葉健康づくり研究ネットワーク 理事  
 千葉大学名誉教授  
 東急財団 環境事業部門 選考委員

鈴木 信夫

「もしもし、至急、相談したいことがあります。一緒に住んでいる母親についてです。本日の朝、38度の発熱があり、昼の現在、39度です。実は、以前から、胸苦しいと訴えることもありました。新型コロナウイルスのこともあり、大変心配です。どうしたらよいのでしょうか？」これは、今春、ある知り合いからの電話内容です。すぐさま、かかりつけの病院へお母さんを連れて行くように指示しました。幸い、その病院で診察を受けることができました。早速、胸部レントゲンの検査を受けられました。肺炎であることが確認されました。発熱と肺炎です。したがって、即刻、保健所へ連絡の上、PCR検査を受けることになりました。その上で、入院ともなりました。数日後、その知り合いからの電話報告があり、PCR検査は陰性だったとの事です。そして、肺炎の原因は、心筋梗塞によるものであるとの診断を受けたそうです。

以上のように、新型コロナウイルスへの対応を念頭に置きながらの昨今です。読者の皆様においては、どのようにお暮らしでしょうか。本欄では、皆様のお役に少しでもお役に立てばと、昨年暮れ頃からの筆者自身の行動とその基盤となる考えを紹介します。今回は、ウイルスについて概観した上で、新型コロナウイルスが新たな感染症の驚異であり、最大限の警戒が必須であるとの認識を共有できればと考えます。

実は、昨年12月中旬に、中国北京近郊にある医科大学の教授より、来日をしての定例の会議を新年早々に開催したいとの申し出がメールであり

ました。しかし、残念ですが、すぐさま、延期の申し出をメール返信しました。かくして、事なきを得ることができました。しかし、時事刻々、ウイルスの情報量が蓄積して行く日々となるのでした。

## ウイルスとは？ コロナとは？ 新型とは？

さて、筆者は、1971年春に千葉大学医学部を卒業後、微生物（ウイルスや細菌）に関する実験研究をしながら、在宅医療を含めた総合内科医療にも携わりました。その後、ストレス科学や宇宙医学の研究、あるいは、生物危機管理の職務などに従事しました。それらの経験から、新型コロナウイルスの特徴について考えることとします。

まず、新型コロナウイルスの名称についてです。ウイルスについては、後述する随所で多面的に説明しますので、ここでは、“コロナ”についてです。ウイルス粒子の表面にある棍棒状の突起構造物が太陽の光冠（コロナ）様であることから、名付けられたとのことです。“新型”は、コロナウイルスに属する他のウイルス、例えばインフルエンザウイルスなどとは違う遺伝子情報を持つことなどから、区別されています。

## ウイルスが変わるとは？

ところで、新型コロナウイルスとヒトとの関わりで、最重要点は何かです。未知のウイルスという点です。最悪、宿主としてのヒトに巢食ってしまうかという懸念です。例えば、ウイルスの病原性を担う遺伝子がヒトの遺伝子に紛れ込んでしま

わなないかです。感染後に症状が寛解しても、再発するのではないかと不安を一生もたねばならないかです。感染者の免疫機能が充分に対応出来ないための巧妙なしかけをウイルス遺伝子が保有していないか、不気味な存在となります。また、遺伝子の変異と言う巧みな生命メカニズムで、より強毒なウイルスへと変わらないかです。

実際に、解析した遺伝子情報からの分類で、5月時点で、大別して7種以上あり、その中のGH型は伝染を容易にする可能性（感染力が3～6倍増大化）が各国の専門家から指摘されています。日本では、7月の時点で、これまでの外国由来型から、東京や埼玉独自の型とでも言うべき変異の指摘が、国会審議の場でありました。中国武漢のように、発生源（エピセンター）が、東京などの首都圏地域で引き起こされる危険性です。各人がウイルスの宿主となり、そのような事態を引き起こさないための行動を願う次第です。

### なぜ通常の風邪ウイルスとは違うのか？

では、感染した場合、どのような特徴が判明しているのでしょうか。最悪、無症状から肺炎が発症し急激に重篤化する症例があります。そこで、なぜ無症状かです。通常、ウイルスに感染すると、ウイルスの増殖を抑制するインターフェロンが体の中の細胞で産生放出されます。また、インターフェロンは脳の発熱中枢に作用します。そこで、感染者は熱発します。ところが、新型コロナウイルス感染では、インターフェロンの産生ないし血液中への放出が阻害されるとの報告があります。このことから、筆者の推論も入りますが、次なる可能性が考えられます。発熱という自覚を誘導できる症状がないまま、重症化の過程が進むのです。しかも、ウイルスの産生放出も阻害されないことから、無症状者からの他者への感染が容易に引き起こされます。

そこで、無症状の感染者の唾液にウイルスが放出されているとのことなので、飛沫感染や唾液付着箇所による接触感染など、様々な感染経路が想定できます。従来の考え方である感染様式、症状

悪化時頃からのウイルス暴露拡大、の危機管理は通用しないようです。このような可能性を支持するかもしれない他の研究報告もあります。ウイルスを産生する宿主細胞は、その機能を破壊されながら、ウイルスの放出過程へと運命を変えると予測されました。ところがです。ウイルスが他の細胞へと伝達され得る、細胞と細胞を繋ぐ構造物が発見されたとの報告があるのです。たしかに、ある種のウイルスでは、ある細胞とその細胞とは違う隣の細胞を融合させてしまうことはあります。しかし、ウイルスが通過できるような橋ができるとは、意外です。あたかも、細菌における薬剤耐性に関わる遺伝子を橋渡しできる性線毛のようなものでしょうか。

そうすると、新型コロナウイルスが感染した身体の細胞の中には、ウイルスの産生工場化したまま温存され、次々と、他の細胞工場が構築されるかもしれません。身体の細胞崩壊による自覚症状を生むことなく、どんどんとウイルスが産生放出されて行くのかもしれないのです。そして、ウイルス量が莫大となり、一気に重篤な過程へと発展してしまうのでは、と。

なお、肺炎のみならず、循環器系疾患などの諸種の臓器における傷害をもたらす、極めて特異なウイルス感染症でもあることが判明しています。さらに、イタリアからの最近の報告ですと、たとえ軽症で回復しても、約9割の回復者で、倦怠感、呼吸困難、関節痛、胸痛などの症状を訴えているとのこと。一方、別の報告では、感染者の中には、脳神経障害を併発して、一生悩まされる可能性があるそうです。

2020年 7月25日 寄稿

本記事は、執筆者の私見に基づく内容を、本誌へご寄稿いただいたものでありますことをご承知おきください。引き続き、ウイルスの蔓延が終息しない厳しい状況にあります。皆様のご健勝を心よりお祈りいたします。

東急財団 事務局

## 多摩川散歩

### 多摩川源流大学から



多摩川源流大学事務局  
NPO法人多摩源流こすげ事務局  
東京農業大学非常勤講師

### 石坂真悟

先月号では、緊急事態宣言が発令された最中に記事を書いていました。その後、オンラインでの勤務や外出規制など、今までとは全く異なる日常を過ごされた方も多いと思います。

この記事を書いている今も、また感染者が増えつつあり不安な日々が続きます。しかし、このコロナ禍を受け、地域で暮らす筆者としては新しい働き方やつながりを発見、感じた事をここでご紹介したいと思います。

#### 大学の講義や都内での会議は全てオンラインに

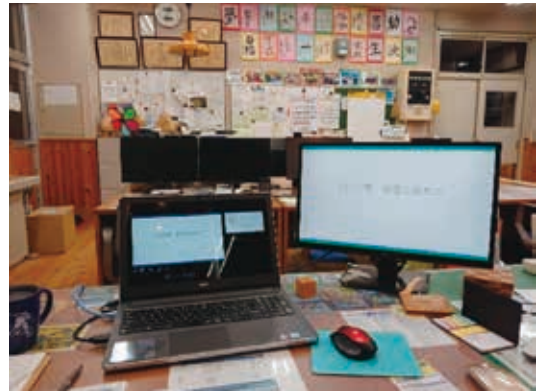
2019年度より、中央大学商学部において「小菅村の社会課題をビジネスの力で解決する講義（演習）」を担当しております。

昨年度から180度変わったことは、講義が全てオンラインとなり、学生は各家庭から参加し、「学生が一度も小菅村に来られない」状況で、村の課題を発見し解決方法を模索していくという状況となりました。

学生にとっても初めての全オンライン講義は、「大学で友人に会えない」「集まらない」という声が多数でしたが、一方「通学時間がなくなって自由な時間が増えた」「遅い時間の講義も受けやすい」というオンライン講義ならではのメリットも聞こえてきました。

私としても、都内での会議参加に費やす移動時間の往復5時間が無くなり、村内での利用できる時間が増えたり、都内で開催しており、今までは参加できなかったセミナー等にオンライン出席できる機会が増えたり、オンライン化したことのメリットを大きく享受していると思います。

その反面、「実体験」という機会は、今まで以上に付加価値の高い行動となっていくのだろうと実感しております。行かなくても経験できること、行かないと経験できないこと、それぞれの強みを活かし、これからの活動をコーディネートしていきたいと思います。



中央大学オンライン講義

#### 学生と高齢者のビデオ通話

小菅村には毎年多くの学生が足を運んで来ています。今年もその予定で多くの学生が予定を立てていたのですが、都内からの来村自粛などがあり、みなさん来村を遠慮してくれています。しかし、小菅村で継続調査を行っている学生にとっては、4月から来村して調査できないということは、短い調査期間で大きな痛手となってしまいます。そこで、学生とヒアリング対象者である高齢者の皆さんと「オンライン」でつなぎ、ヒアリング調査を行ってみました。両者がすべて聞き取れるようになるには、もう少し工夫が必要な状態でしたが、なんとかヒアリングができることがわかりました。高齢者の方々にとっても、このような機会は新鮮で刺激的だったようです。



オンラインヒアリング

#### ○皆様の声をお聞かせください。

オンラインでの“小菅村ツアー”などがあったら参加してみたいですか？

(9月・10月の平日昼間1時間程度を予定)

下記URLまたはQRコードアクセスの上ご回答ください。



<https://forms.gle/ZpmDQRL3JVgiVWcy6>

## 多摩川に学ぶ

### ゆったりじっくり多摩川とふれ合う



NPO 法人砧・多摩川あそび村

理事長 上原 幸子

昨年の台風の影響がまだまだ残っている多摩川ですが、こんな時だからこそ大勢で一斉に行うイベントではなく、個々にゆったり生きものとの出会いを楽しめたらいいですね。巣ごもり生活が始まった春には、Instagramで自然遊びのアイデアを配信していましたが、長期戦になっているこの機会に、子どもと一緒に多摩川の魅力にハマってもらえたらと、作って楽しめる自然遊びをご紹介します。

#### 水の中の生きものとふれ合う

このところ多摩川の釣り人口は明らかに増えていますが、是非やってみて欲しいのが、親子で手作りしながら気軽に楽しめる「あんま釣り」です。必要な道具は、1～2mくらいの竿（七夕に使った笹竹などで可）、竿より少し長い1号程度の釣り糸と2号程度の釣り針、バケツです。河原の石の裏にいる川虫を餌として捕まえるところから楽しめるのも魅力。オイカワやウグイなど、体長10cmくらいの小魚が釣れます。上流側から下流に向かって糸を垂らし前後させるなど、少しコツが必要ですが、誰でもすぐできるようになると思います。

水の中の生きものと触れ合えるのは10月くらいまで。タモ網でのガサガサも楽しめますが、膝より深いところには行かないようにしましょう。



あんま釣り

#### 草地の生きものとふれ合う

広い河川敷をわがもの顔で乱舞するトノサマバッタ。なかなか飛距離があり捕まえづらいので、頑張って捕まえた時の快感は最高です。子どもの頃から、捕虫網

でなく素手で虫を捕まえることに至上の喜びを感じる虫好きだったので、どこまでも追いかけて行きたくになります。そんなトノサマバッタを、おとなしくさせて捕まえる方法が「トノサマバッタ釣り」です。オスがメスの上に乗って来る習性を利用するのですが、虫の世界ではオスよりメスの方が大きいこと、そしてオンプバッタも親子ではないと気づくことに、自然体験の楽しさと発見があります。

まずちょうどバッタと同じ5cmくらいのサイズの木端にバッタの絵を描き、トノサマバッタのそっくりさんを作ります。それと長さ30cm程度のオギの茎や木の枝に30cm程度のタコ糸を結んで、短い釣り竿を作ります。トノサマバッタがいるのを目で追い、糸を垂らしてそっくりさんをそっと横に寄り添わせてみます。逃げて行かないとなるとしめたもの。それはオスです。バッタも迷った挙句、ぴよんと乗って来ます。でもそっくりさんだから間違えて乗って来るのではなく、バッタにとっては自分の体に近い大きさが大事というだけなので、実際には長ネギを切ったものでも釣れるそうです。バッタ以外の虫も引っかかることもあるので、是非試してみてください。

どんな生きものが採れたのか、今はスマホを持ってさえすれば、その場ですぐ検索ができるようになりました。図鑑を何冊も持ち歩いているようなものですから、わからないこともすぐにその場で調べられます。是非親子で、多摩川の生きものとふれ合いにきてください。



だましのテクニック、トノサマバッタ釣り



オオカマキリ釣り



多摩川改修 100 年 エピローグ

## 8. 多摩川直轄改修への道

国土交通省国土技術政策総合研究所  
主任指導官、博士(工学) 和田 一範

毎年のように被災する多摩川の防災を目指した、地域の人々の鉄の結束による様々な取り組みと、神奈川県、東京府、内務省の役人たちとの強い連携のドラマは、いよいよ大詰めを迎えます。

大正3年(1914年)9月16日、暴れ多摩川の洪水を防ぐための堤防建設について、全くめどが立たない状況に、地域の人々がついに大きな不満を爆発させ、当時御法度の集団陳情に打って出たアミガサ事件。そしてこれに端を発した多摩川左右岸の築堤争いは、多摩川兩岸の地域住民、各村役場、県、府、両議会議員、帝国議会議員、内務省をあげての大騒動の末、2年後の大正5年(1916年)12月18日、玉川小学校にて開催された御幸堤防落成式(ごきんづつり)の場で、一応の決着を迎えました。この場で、御幸村上平間より下沼部に至る1,200間(約2,180m)の新堤が「有吉堤」と命名されました。

その後は、神奈川県、東京府の連携のもと、体勢は一気に多摩川の抜本改修である内務省直轄改修へと走り出します。有吉堤命名の同日、両府県の議会による多摩川治水期成同盟会が発足しました。実は、この1年前の同日にも同様の会合が持たれ、その後、両府県の議会は直轄改修の請願を決議、これを受けて帝国議会は請願の採択を行う、という関係プレーが展開するのですが、この動きは有吉知事の道路改良による盛土建設の強行により、ストップしてしまいました。

一年の時が過ぎて、一連の騒動を経て、事態は多摩川直轄事業化に向けて、神奈川県、東京府の府県議会議員と国会議員の連携による活動展開に進んでいきます。東京・神奈川両府県の議会議員7名ずつによる多摩川治水期成同盟会の面々が、国会議員や大蔵省、内務省に活発に働きかけました。交渉にあたっては、多摩川の抜本的な改修の重要性とともに、内務省から派遣した官選知事が

譴責処分を受けるような事態になったのは、そもそも大河川の改修を、左右岸の異なる府県が行うことが問題で、国の立場で統一的に進めることが唯一の解決策である、という主張が展開されます。

大正6年(1917年)7月2日、第39回帝国議会衆議院請願委員第一分科会および請願委員会に於いて、「多摩川を第一期河川に繰上げの件」が採択となります。12月4日、大蔵省は、大正7年度予算案に多摩川直轄改修の繰り上げ実施を盛り込むことを決定しました。有吉知事の処分も含めて一連の騒動と地域住民のとりくみは、内務省による大蔵省交渉での好材料となり、結果として、第1次治水長期計画第二期河川の皮切りとして、多摩川の内務省直轄事業化が実現しました。

その後、舞台は神奈川県、東京府、両府県の議会の場に移って、直轄事業化にかかる地元負担金の予算化の手続きに入るのですが、ここで、あろうことか多摩川の直轄改修問題は、神奈川県議会の政争の具とされてしまいます。

12月16日、神奈川県議会郡部会で、有吉知事は多摩川改修事業と神奈川県負担にかかる説明を行いました。改修費用の県負担分は、全額郡部負担となっていました。これに対して一部の郡部選出議員が、多摩川の改修は横浜市などにも大きな利益を得るものであり、市・郡連帯により負担することが相当であるとの主張をし、原案に反対したのです。当時の県会では、県予算の財政を市部と郡部に分けて支弁していたので、市部議員と郡部議員との間でたびたび対立があり、様々な議案が政争の具とされてきました。そもそも神奈川県議会での対立は、政友会と刷新派の政争であり、これを打破するためにそれぞれの会派が、様々な大会をぶち上げて、氣勢を上げました。



この大会のもっとも大きなものが、大正7年(1918年)3月9日多摩川改修期成同盟会主催橋樹郡民大会で、ここに有力者800名余りが集結をしました。橋樹郡各町村長のほか、代議士、県会議員、そして一連の騒動の立役者秋元喜四郎も名を連ねたこの大会は、平間の渡し下流の攻防の顛末の結果得られた、多摩川の治水にかかる橋樹郡の連携復活の、大きな舞台となりました。その後、



多摩川治水記念碑(多摩川浅間神社横)  
蒸気機関車や浚渫機械船などの機械化施工による近代土木技術の粋を集めた、内務省直轄土木技術の顕彰碑(昭和11年(1936年)6月建立)  
アミガサ事件100年の会現地見学会(2018年3月4日)、左端は筆者

ようやく、沿川住民の悲願であった、内務省多摩川直轄改修事業の開始に至ったのです。

左岸調布・玉川村、右岸高津村より下流海まで22km。上平間ガス橋の地点で、明治43年の洪水水位よりも1.11m高い堤防、左右岸同じ高さの抜本改修です。以降、昭和8年(1933年)度までのこの事業で、暴れ多摩川は現在の大きな2本の堤防によって囲まれ、以来、大きくこの堤防を越えて溢れることはなくなりました。

有吉堤とアミガサ事件の舞台、川崎市中原区上平間は、私の出身地です。私はこの地に生まれて、大学の土木工学科を卒業する年まで、ここで暮らしていました。土木工学科で河川技術者を目指したのは、昭和49年(1974年)の狛江市の多摩川破堤の現場を、この目で直接、目の当たりにした

からです。大学卒業とともに建設省に入省し、転勤族としてこの地を離れ、全国の河川行政を担当してきましたが、残念ながら、最近までこの一連の事件を詳しくは認識していませんでした。

大正年間、日本の近代河川改修の創成期に、この地で約2年間にわたって展開された、アミガサ事件と有吉堤の一件は、明治時代から続く地元の旧家の親族や同胞たちによって語り継がれてはきたのですが、私の家は親父が日本鋼管(現在のJFE)の勤務で、京浜製鉄所に通うために、昭和20年代後半からこの地に居を構えたもので、戦後の経済成長とともに同様に住み着いた、暴れ多摩川を知らない、昭和のほとんどの都市住民の間では、この案件はまったく語られなかったのです。

小学校、中学校の郷土史教育においても、地元川崎の歴史的な一大インフラ整備として、二ヶ領用水と小泉次太夫、そして現在も機能する円筒分水のことは学びましたが、この案件について教えられることはありませんでした。

この地域は、現在、全国各地にどこでもある、いわゆる都市部の住宅地で、明治・大正年間は農村だったものが、日本の近代化に伴い、河川堤防、鉄道や道路などのインフラ整備によって、土地利用が高度化し、特に戦後、農地から宅地へと急速に変化し、高度成長期には住居密集の市街地へと変遷したものです。内務省直轄による多摩川の抜本改修が、この地域の発展に大きく寄与しました。多摩川沿川が現在のような大都市へと発展した、大きな礎となったのがこの一連の騒動なのです。

アミガサ事件と有吉堤、多摩川直轄改修への道の、人々の取り組みの中には、現代の防災に示唆を与える、防災の主役、自助・共助と、公助との連携にかかる教訓が、数多く見いだされます。自然の猛威には際限がありません。いつかまた暴れ多摩川が、大きな堤防を破壊して多摩川沿川を泥の海にしてしまうリスクは十分にあります。その時、100年前の地域住民が取り組んだ行動を知っておくことが、大いに現代の防災に役に立つのです。

この歴史的な教訓を、しっかりと語り継いでゆくこと、そして今日の防災のためにみなさん一人一人が何をしなければならないのか、何ができるのかを、常に考えていくことが重要です。(完)



## 「令和元年東日本台風（台風第19号）に伴う洪水による環境変化」について

令和元年東日本台風（台風第19号）により、一部の水位観測所で計画高水位を超過する洪水となり、社会生活に関し甚大な被害を発生させました。一方で、河川環境という視点では、広い範囲で河岸の侵食や土砂の堆積等が見られ、洪水前後で大きな変化が伺えました。

### 1. 中上流域での環境変化について

洪水前の中上流域では、過去の洪水により形成された砂州上にカワラノギク等の河原固有の植物が生育する一方で、洪水後に侵入した外来樹木ハリエンジュの定着・拡大が見られる等、礫河原環境に対する悪影響が確認されていました。今回の洪水により上流域から大量の土砂が流下したことで、ハリエンジュを含む植生が流失し、広い範囲で礫河原環境が再生されました。

なお、河原植物は、出水の度に消長を繰り返す砂州を生育域とすることから、新たに形成された砂州での分布拡大が期待される一方で、流下土砂に含まれる種子や枝等からハリエンジュの再萌芽も懸念されています。



出水前後の礫河原環境の再生状況

### 2. 河口域での環境変化について

河口域では、今回の洪水により干潟の分布域が若干移動した箇所があるものの、広い範囲に分布する干潟とヨシ原については、概観として洪水前後で大きな変化は見られませんでした。しかし、生息域に細粒分が堆積する等、生息域の改変が見られることから、生息・生育域が限定される河口域固有の生物について注視していく必要があります。

**京浜河川事務所ではFacebookを公開しています！**

京浜河川事務所の取り組みや 所管する多摩川、鶴見川、相模川、西湘海岸、沖ノ鳥島に関する情報を、みなさんに分かりやすく情報発信していきます

<https://www.facebook.com/keihin.river.mlit/>



## インフォメ／多摩川

多摩川流域他の各種団体等の9月から12月に開催される環境活動に関する  
主な行事・イベント情報を紹介いたします。

自然災害や感染症拡大防止、その他やむをえない事情により  
中止・延期または内容が変更となる場合があります。  
各団体のホームページ等で、必ず事前にご確認をお願いいたします。

## 美しい多摩川フォーラム

今号は、イベント開催が出来ませんので、私たちのテーマソング「多摩川の歌」をご紹介します。

美しい多摩川フォーラムでは、会員の要望により、2010年3月に「多摩川の歌」(作詞・谷川俊太郎/作曲・寺嶋陸也)をつくり、2011年3月には同曲のCDを制作しました。また、2012年2月にはDVDを制作し、「多摩川の歌」の普及に努めております。



### 多摩川の歌

作詞／谷川俊太郎  
作曲／寺嶋陸也

大空の<sup>おおぞら</sup>高み<sup>たか</sup>ふるさとにして  
霧は<sup>きり</sup>まき露は<sup>つゆ</sup>地に<sup>ち</sup>しみ  
大地の<sup>だいち</sup>深み<sup>ふか</sup>を<sup>を</sup>みなもとにして  
せせらぎは<sup>せせらぎ</sup>生まれ<sup>う</sup>拡がる  
迸り<sup>ほととぎす</sup>流れて<sup>なが</sup>止まぬ  
多摩川<sup>たまたが</sup>は<sup>が</sup>きらめく<sup>あ</sup>いのち

水辺の<sup>みずべ</sup>桜<sup>さくら</sup>に<sup>に</sup>夢<sup>ゆめ</sup>を<sup>を</sup>託<sup>たく</sup>して  
集う<sup>つど</sup>人遊<sup>ひとあそ</sup>ぶ<sup>ぶ</sup>子<sup>こ</sup>どもら  
人々の<sup>ひと</sup>心<sup>こころ</sup>ゆるく<sup>ゆる</sup>むす<sup>む</sup>んで  
水青<sup>みずあお</sup>く<sup>く</sup>森は<sup>もり</sup>緑<sup>き</sup>に  
渦巻<sup>うずま</sup>いて<sup>いて</sup>湛<sup>た</sup>えて<sup>えて</sup>深<sup>ふか</sup>く  
多摩川<sup>たまたが</sup>は<sup>が</sup>はぐくむ<sup>む</sup>いのち

なお、CD や DVD をご希望される方は、事務局までご連絡ください。

### お問い合わせ先

美しい多摩川フォーラム事務局 (青梅信用金庫 地域貢献部内)

担当：及川 / 木村 / 鈴木 TEL 0428-24-5632 FAX 0428-24-4650

E-mail [forum@tama-river.jp](mailto:forum@tama-river.jp) URL <http://tama-river.jp>

## とどろき水辺の楽校

9月 6日 (日) 10時～12時

**安全教室** 丸子橋下 参加費 200円

9月 20日 (日) 10時～12時

**安全教室** 丸子橋下 参加費 200円



10月 4日 (日) 10時～12時

**昆虫教室** とどろき水辺の楽校フィールド 参加費 200円

11月 3日 (祝・火) 10時～15時半

**二子の渡し体験** 高津区二子神社 乗船代 300円

### ■お問い合わせ先

NPO 法人 とどろき水辺の楽校

理事・事務局 鈴木 眞智子

〒 212-0004 川崎市幸区小向西町三丁目 64

電話 044-201-1493 携帯 090-5814-9604

E-MAIL [info@todoroki.org](mailto:info@todoroki.org) <http://www.todoroki.org>



## 一般財団法人 世田谷トラストまちづくり

■世田谷トラストまちづくりビジターセンター ～世田谷区成城 4-29-1 (野川沿い)

### \*改修工事にもなう臨時休館のお知らせ

空調設備等の改修工事にもない、下記の期間、臨時休館となります。

休館中のお問合せは、財団事務所へお願いいたします。

**休館：9月28日～3月上旬(予定)**

※再開の日程は、決まり次第、財団ホームページ等でお知らせします。

### ■申込・お問い合わせ先

(一財) 世田谷トラストまちづくり トラストみどり課

TEL 03-6379-1624 FAX 03-6379-4233

〒 156-0043 世田谷区松原 6-3-5 財団 HP <https://www.setagayatm.or.jp/>

## NPO 法人 砧・多摩川あそび村

子どもたちに豊かな自然体験と安心できる居場所を

### ■ 「きぬたまあそび村」

「多摩川水系河川整備計画」をきっかけに始まった多摩川の自然体験遊び場です。世田谷区の委託事業として運営し、プレーワーカーと呼ばれる遊び場スタッフが常駐しています。「自分の責任で自由に遊ぶ」をモットーに、子どもたちの活動支援と原っぱの維持管理をしています。

日 時：毎週 4 日 月・水・金・土 10 時 30 分～17 時

場 所：多摩川河川敷二子緑地せたがや水辺の楽校はらっぱ

アクセス：東急田園都市線・大井町線「二子玉川駅」徒歩 20 分

東急バス 砧本村行き バス停：都市大グラウンド前下車 1 分

成城学園前駅行き バス停：砧南中学校前下車 4 分



世田谷区そとあそびのノボリ

### ★秋のプログラム

「きぬたまあそび村」の活動内に、時間を区切って行います。



生きもの博士の楽しい解説



自然を生かしたネイチャークラフト



弓矢を作って飛ばし競争

#### ◎ 9 月：生きものたくさん

原っぱのビオトープづくりをしながら、たくさんの生きものを観察します。

講師：生きもの博士・伊藤晴康さん

#### ◎ 10 月：草木染め・ネイチャークラフト

多摩川の外来植物を使った草木染めや、自然素材を使った工作をします。

講師：多摩川博士・えのきん 材料費：200 円

#### ◎ 11 月：きぬたま運動会

普段のあそびの中で体を動かして楽しめるように種目を工夫します。

詳細はブログなどに UP しますのでご確認ください。

### ■ お問い合わせ先

NPO 法人 砧・多摩川あそび村

〒157-0077 世田谷区鎌田 1-19-1-101 きぬたまの家

TEL 03-6447-9931

MAIL [info@kinutama.com](mailto:info@kinutama.com) HP <https://kinutama.com/>

ブログ <http://asobimura.exblog.jp/>



きぬたまあそび村

## NPO 法人多摩川エコミュージアム

### ■第 18 回 多摩川夕涼みコンサート

日 時：9月5日（土） 開場 17:30 開演 18:00 雨天中止

場 所：南武線／小田急線登戸駅下車徒歩 8 分

ニヶ領せせらぎ館下 河川敷広場

内 容：style-3! アコースティック POP インストユニット

多摩川の夜空を楽しみませんか

チケット：前売り 1,000 円 当日 1,300 円（中学生以下無料）



### ■ラフティングボート体験乗船会 ～～広い中洲で遊びましょう～～

日 時：8月1日（土） 9月12日（土） いずれも 9:00～12:00

場 所：ニヶ領せせらぎ館 開催場所 ニヶ領宿河原堰下流 中洲

内 容：6人乗りラフティングボートで川崎から対岸へ渡り河童の川流れなどで遊ぶ

対 象：小学生以上のお子さんと保護者

参加費：1,000 円／一人

- 【コロナ感染防止対策】** ①参加前に検温 ②着替えは親子単位 ③乗船は親子単位  
④安全講習会はソーシャルディスタンスを保ち開催 ⑤説明スタッフは、フェースシールド着用



新型コロナウイルス感染発生状況により止む無く中止の場合があります。

### ■お問い合わせ先

ニヶ領せせらぎ館（にかりょうせせらぎかん）

【JR 南武線 / 小田急線登戸駅下車徒歩 8 分】

TEL/FAX：044-900-8386 URL：http://www.seseragikan.com/

住 所：神奈川県川崎市多摩区宿河原 1-5-1

開館時間：10:00～16:00 5月～8月 土日祝は 9:00～16:00

休 館 日：毎週月曜日（祝日の場合はその翌日）及び第一・第三水曜日



## せたがや水辺の楽校

ただいまホームページリニューアル中です。直近の活動については、ブログにてお知らせしています。天候の急激な変化による川の増水や、感染症など、社会情勢によってプログラムの変更、中止がありますので、ご注意ください。

▶ せたがや水辺の楽校ブログ・・・URL : <https://semizube.exblog.jp/>



### ■ あそびの日 (第1日曜日 10時～12時)

集合受付場所：せたがや水辺の楽校原っぱ

2020年9月6日(日)・10月4日(日)

開催場所の野川ベース(二子玉川駅近く)でも受付します

▶ 野川で水辺ガサガサをして水生生物を捕まえて観察をします。

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、子どもたちを集めての生きものの解説は行わないことがあります。

川で楽しく安全に遊べるように、ライフジャケット、たも網などの道具を貸出します。



2020年11月1日(日) 12月6日(日)

▶ せたがや水辺の楽校原っぱで、草地の生きものを捕まえて観察します。

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、子どもたちを集めての生きものの解説は行わないことがあります。

捕虫網や、観察ケースなどを貸出します。



### ■ 原っぱアトリエ (第3日曜日 10時～15時)

2020年10月18日(日) 11月15日(日)

開催場所：せたがや水辺の楽校原っぱ

▶ 広い河川敷の原っぱで自然素材を使ったアートを楽しみます!

※プログラムについては、ブログでご確認ください。



### ■ お問い合わせ先

NPO 法人せたがや水辺デザインネットワーク

Mail [info@mizubedesign.org](mailto:info@mizubedesign.org) TEL 080-3007-5413 (村上)

HP <https://mizubedesign.org> (リニューアル中)

ブログ <https://semizube.exblog.jp/>

FB : <https://www.facebook.com/mizubedesign/>



～～多摩川と崖線の森の街で 一人ひとりが大切にされる毎日を～～

## 2020 年度 研究助成金受領者

### 1 新規 学術研究

No.	研究課題	代表研究者	所属	研究期間	2020年度 助成金額
1	多摩川河川敷におけるテナトウムシ類の季節的動態およびエサ資源生物の分布とそれらに関わる緑地の重要性	南 佳典	玉川大学 農学部 教授	2年	405,344
2	多摩川河口域の微生物資源、希少放線菌の多様性保全および新種の分離に向けた取り組み	寺原 猛	東京海洋大学 海洋生物資源学部門 助教	2年	610,000
3	2019 - 2020年の調査を通じた台風19号による多摩川の礫河原再生が河川敷の粒径組成、植生、陸生の昆虫に及ぼした影響評価	柳川 亜季	明星大学 理工学部 助教	1年	631,379
4	環境保全型農法による土壌微生物群集が多摩川梨の品質と収量に与える土壌の好条件の解明	甲斐 貴光	明治大学 黒川農場 特任講師	1年	2,000,000
5	江戸時代多摩川の生態系と鷹場	山崎 久登	東京都立砂川高等学校 通信制課程・教諭	2年	51,780
6	レーザーキャナを用いた多摩川流域上総層群化石群の3次元構造データ保存法の確立	中島 保寿	東京都市大学 知識工学部自然科学科 准教授	2年	1,992,500
7	多摩川流域に生息する水生植物から分離した糸状菌を用いた抗冷水病活性物質の探索	酒井 一成	北里大学 大村智記念研究所 微生物応用科学研究室 特別研究員	2年	1,500,000
8	河川攪乱後に出現する先駆種の標本所蔵体制の強化に関する研究 - 実施プロセスにおける教育的効果の検討もふまえて -	佐藤 友香	東京医科歯科大学 大学院医歯学総合 研究科 医歯学系専攻 環境社会医歯学 講座 医療政策情報学分野 博士課程	2年	856,580
9	多摩川流域中の窒素・リンの定点分析と植物肥料としての有効利用技術の開発	渡邊雄二郎	法政大学 生命科学部 教授	2年	350,000
合 計 (9件)					8,397,583

### 2 新規 一般研究

No.	研究課題	代表研究者	所属	研究期間	2020年度 助成金額
1	魚類(オイカワなど)をマーカーとした水再処理センターの排水の影響を受けない多摩川中上流域におけるマイクロプラスチック汚染調査	伊藤 教行	特定非営利活動法人 R.I.La 理事 主任研究員	2年	628,140
2	コシアカツバメ ( <i>Hirundo daurica</i> ) が多摩川河川敷に分散・拡大した動向と現状を通して多摩川中・下流域の環境および都市化と農耕地の変遷を探る	苗川 博史	東京農業大学 客員教授	2年	250,000
3	台風19号による大増水で全滅した多摩川の河原植物が自然再生するかについての調査・研究	柴田 隆行	多摩川の自然を守る会 代表	2年	237,000
4	多摩川水系における希少性コウモリ類の生息を探る	井上 太志	自然観察活動チーム Wild Lives Watchers 代表	2年	298,508
5	浅川流域の陸水学的研究	角田 清美	青梅市教育委員会 青梅市文化財保護指導員	1年	274,267
6	令和元年10月台風第19号による攪乱後の多摩川水系における鳥類の生息状況及び生態の変化に関する調査研究	渡辺 仁	特定非営利活動法人東京生物多 様性センター 代表理事	2年	550,000
7	多摩川上流域のリター堆積における食物網構造とその決定要因の解明	太刀掛脩平	東京大学大学院農学生命科学研究科 森林科学専攻森林動物学研究室修士 課程	2年	671,550
8	都市農業評価のための食料・水・エネルギーネクスサスモデリング 多摩川流域を対象として	岸本 慧大	慶應義塾大学大学院 政策・メディア研究科修士課程	2年	500,000
合 計 (8件)					3,409,465



## 3 継続 学術研究

No.	研究課題	代表研究者	所属	研究期間	2020年度 助成金額
1	多摩川流域における水中微細マイクロプラスチック存在調査とシミュレーションモデルを用いた流域内挙動解析	亀田 豊	千葉工業大学 創造工学部 准教授	2年	1,000,000
2	巨大都市を流れる多摩川流域で薬剤耐性遺伝子を伝播しうるプラスミドの同定とその伝播経路の解明	新谷 政己	静岡大学 工学部 准教授	2年	1,000,000
3	多摩川の流域周辺に生息するワカケホンセイインコ ( <i>Psittacula krameri manillensis</i> ) など、野生化した飼鳥から人に感染する病原体の調査	佐々悠木子	東京農工大学 農学研究院 講師	2年	1,300,000
4	多摩川流域のドジョウ類の分布と生息環境, 及びヒガシマドジョウの河川内での季節移動と環境利用	吉川 朋子	玉川大学 農学部 生産農学科 教授	2年	192,288
5	多摩川上流域に侵住した大型珪藻外来種の生息状況とその対策に関する研究	田中 正明	四日市大学生物学研究所 所長	2年	163,480
6	多摩川水系におけるセミの抜け殻を利用した元素分布の広域調査	大貫 敏彦	東京工業大学 先導原子力研究所 教授	2年	799,000
7	多摩川底質の亜酸化窒素消費ポテンシャルの体系的評価: 排水処理施設からの放流水の影響	寺田 昭彦	東京農工大学 大学院 工学研究院 教授	2年	1,000,000
8	水の循環と子どもの遊びからみる自然と社会とのつながりとその価値について—多摩川流域の自然環境保全に向けた流域連携の可能性に向けて	土肥 真人	一般財団法人エコロジカル・デモ クラシー財団 代表理事	2年	1,307,000
9	多摩川におけるマイクロプラスチック汚染状況と魚類への影響	二瓶 泰雄	東京理科大学 理工学部土木工 学科 教授	2年	2,000,000
10	多摩川の遺伝資源: 固有の魚類個体群とその生態	吉永 龍起	北里大学 海洋生命科学部 准教授	2年	1,000,000
合 計 (10件)					9,761,768

## 4 継続 一般研究

No.	研究課題	代表研究者	所属	研究期間	2020年度 助成金額
1	多摩川鳥類カウント再現	蓮尾 純子	多摩川鳥類カウントグループ 会長	2年	326,000
2	プラスチック製産卵誘致容器の活用によるトンボ類の保護・増殖	久保田繁男	特定非営利活動法人横沢入里山 管理市民協議会 理事長	2年	134,872
合 計 (2件)					460,872
総 合 計 (29件)					22,029,688

2020年3月11日に開催しました「第62回選考委員会」におきまして、田畑貞壽委員長をはじめとする選考委員により、長時間に及び厳正な審議の結果、総件数57件(学術研究34件、一般研究23件)の中から、当2020年度の調査・試験研究費助成対象として、新規研究17件(学術研究9件、一般研究8件)および継続研究12件(学術研究10件、一般研究2件)の、計29件を採択いたしました。当財団の研究助成制度は今回で46回を数え、累計助成件数は、1,309件、累計金額は15億2100万円となっております。

なお7月に予定をしておりました「研究助成金贈呈式」は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止とさせていただきます。

事務局より

最近、家族で自宅の近くに菜園を借りています。畳一枚ほどのところに各種の野菜を植えているのですが、この季節は少し日にちが空くと、作物は恐ろしい勢いで伸びていきますね。人手をかけている畑ですらこうですから、河原や堤防を見守る方のご苦勞はいかばかりかと感服します。河原に腰を下ろして川面を眺めるとき、大自然の中で活かされている奇跡について、あらためて想いを巡らすのです。(Z)

- 発行日 2020年9月1日
- 編集兼発行 公益財団法人 東急財団 環境部  
〒150-8511  
東京都渋谷区南平台町5番6号  
TEL 03-3477-6301  
公式ウェブサイト：<https://foundation.tokyu.co.jp/>

